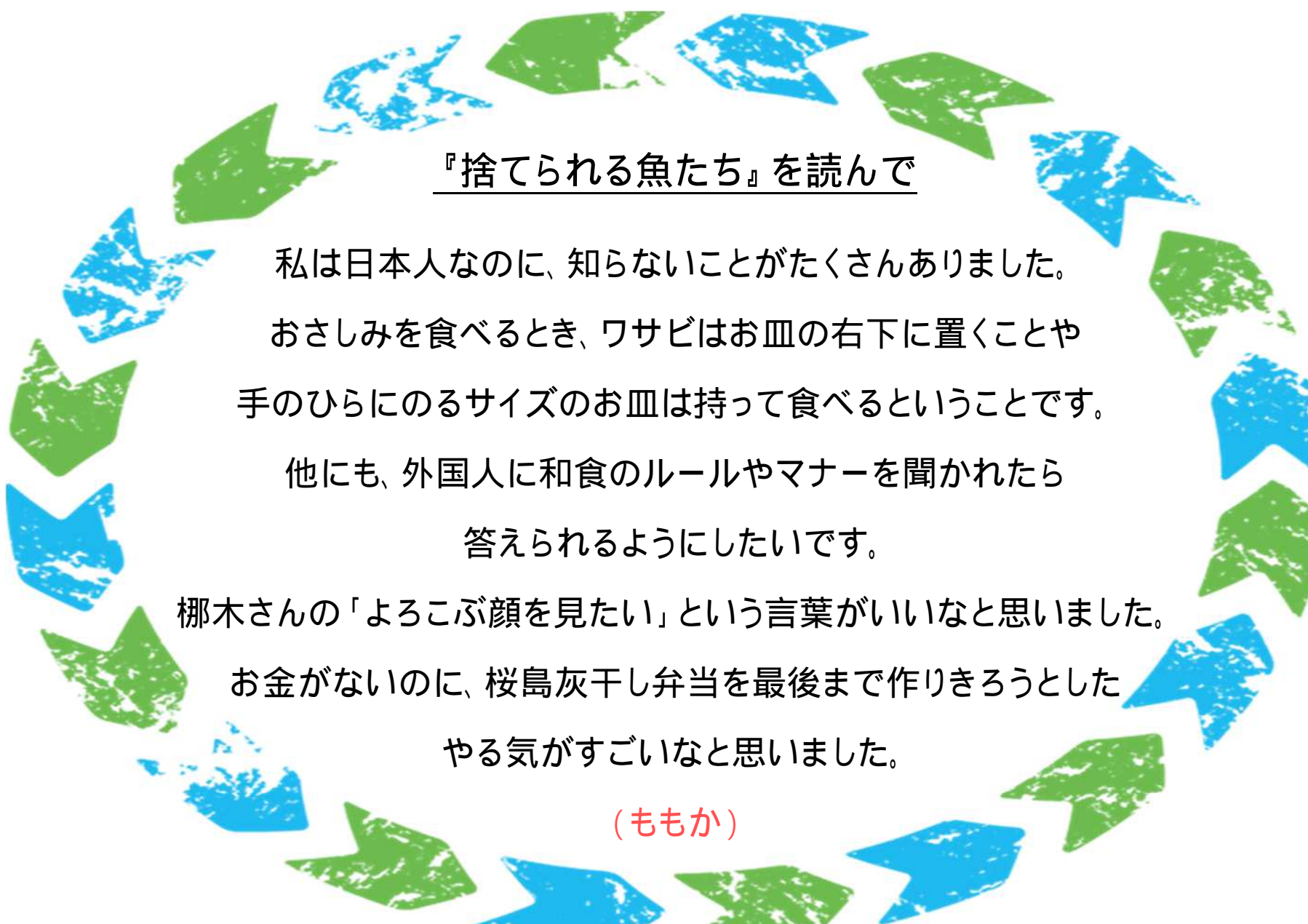


『捨てられる魚たち』を読んで

この本の内容は、筆者であり、日本料理店の総料理長であった椰木春幸さんが母の看病のために実家の鹿児島に還ってきたことから始まります。料理人としての華々しいキャリアを捨てた椰木さんは、「自分にはすべきことがほかにあるのでは」と考え、料理教室をはじめます。そこで未利用魚に出会いました。「未利用魚」とは、あまり知られていませんが、規格外などの理由で売れない、出回らない魚のことです。漁師が未利用魚を採っても儲からないので捨てられてしまうのです。だから椰木さんは、未利用魚を使って灰干し弁当を作っていきます。それが、地元の人々を巻き込み、地元経済に大きな影響を与え、広がりを見せていきます。私は、どんなに難しい課題があっても挑戦し続けることで助けてくれる人が現れて世界がどんどん広がっていったところに感動し、挑戦することの大切を学びました。

(はるか)



『捨てられる魚たち』を読んで

私は日本人なのに、知らないことがたくさんありました。
おさしみを食べる時、ワサビはお皿の右下に置くことや
手のひらにのるサイズのお皿は持って食べるということです。
他にも、外国人に和食のルールやマナーを聞かれたら
答えられるようにしたいです。

榎木さんの「よろこぶ顔を見たい」という言葉がいいなと思いました。
お金がないのに、桜島灰干し弁当を最後まで作りきろうとした
やる気がすごいなと思いました。

(ももか)

『絵画をみる、絵画をなおす保存修復の世界』を読んで

この本は、田口かおりさんという古い絵画を修復する修復家の人を書いた本です。

絵を修復している様子や、修復が必要な絵画について詳しく書かれています。

絵とは何なのか、この絵をなおしてもいいのだろうかなどと、

田口さんが考えている事も、私にとって新しい視点だったので興味深いと思いました。

田口さんの、修復家としての思いや覚悟が伝わってくる本です。

(はるか)

『絵画をみる、絵画をなおす保存修復の世界』を読んで

はじめ僕は古くなった美術品を保存修復する、ということが
どういふことかわかりませんでした。なぜなら、美術品に手を加えると
全く違ったものになってしまうのではないかと思ったからです。

でも、著者の田口さんは、美術品の作者が絵具をけずったこん跡を残したり、
修復の記録を残したりして、美術品を見る人に
自分たちが壮大な歴史の一点として、
今を生きていることを感じられるようにしてくれていると思いました。

(こうた)

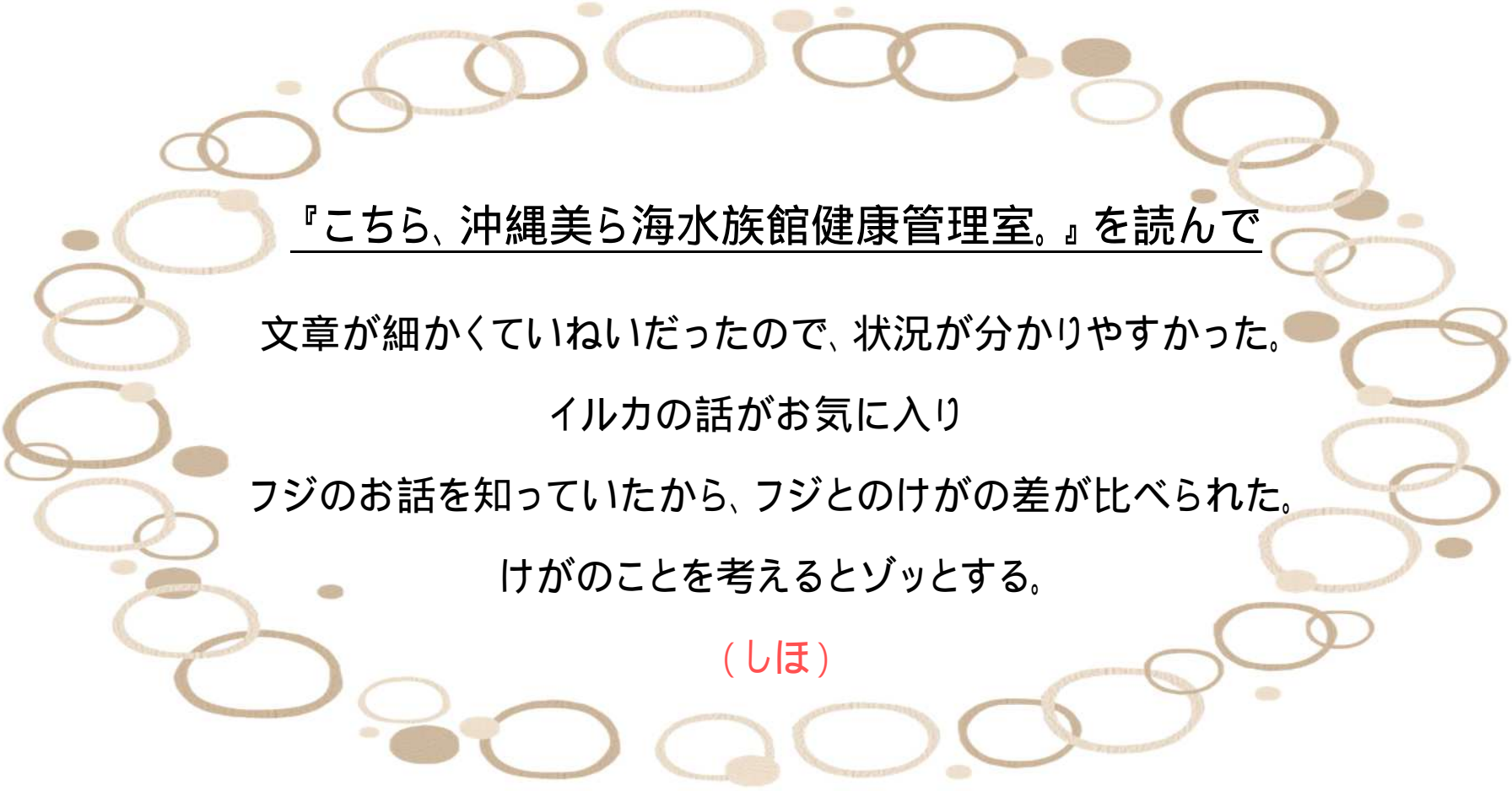
『絵画を見る、絵画をなおす保存修復の世界』を読んで

この本は、修復家の作者の人がイタリアの学校で
修復の技術の事を学び、美術品をなおす話です。

この本を読んで、私は美術館でふつうに作品を見ているけど、
裏には作品をなおす人がいることを知りました。

もっと美術館に行きたくなりました。

(えみ)



『こちら、沖縄美ら海水族館健康管理室。』を読んで

文章が細かくていねいだったので、状況が分かりやすかった。

イルカの話がお気に入り

フジのお話を知っていたから、フジとのけがの差が比べられた。

けがのことを考えるとゾッとする。

(しほ)

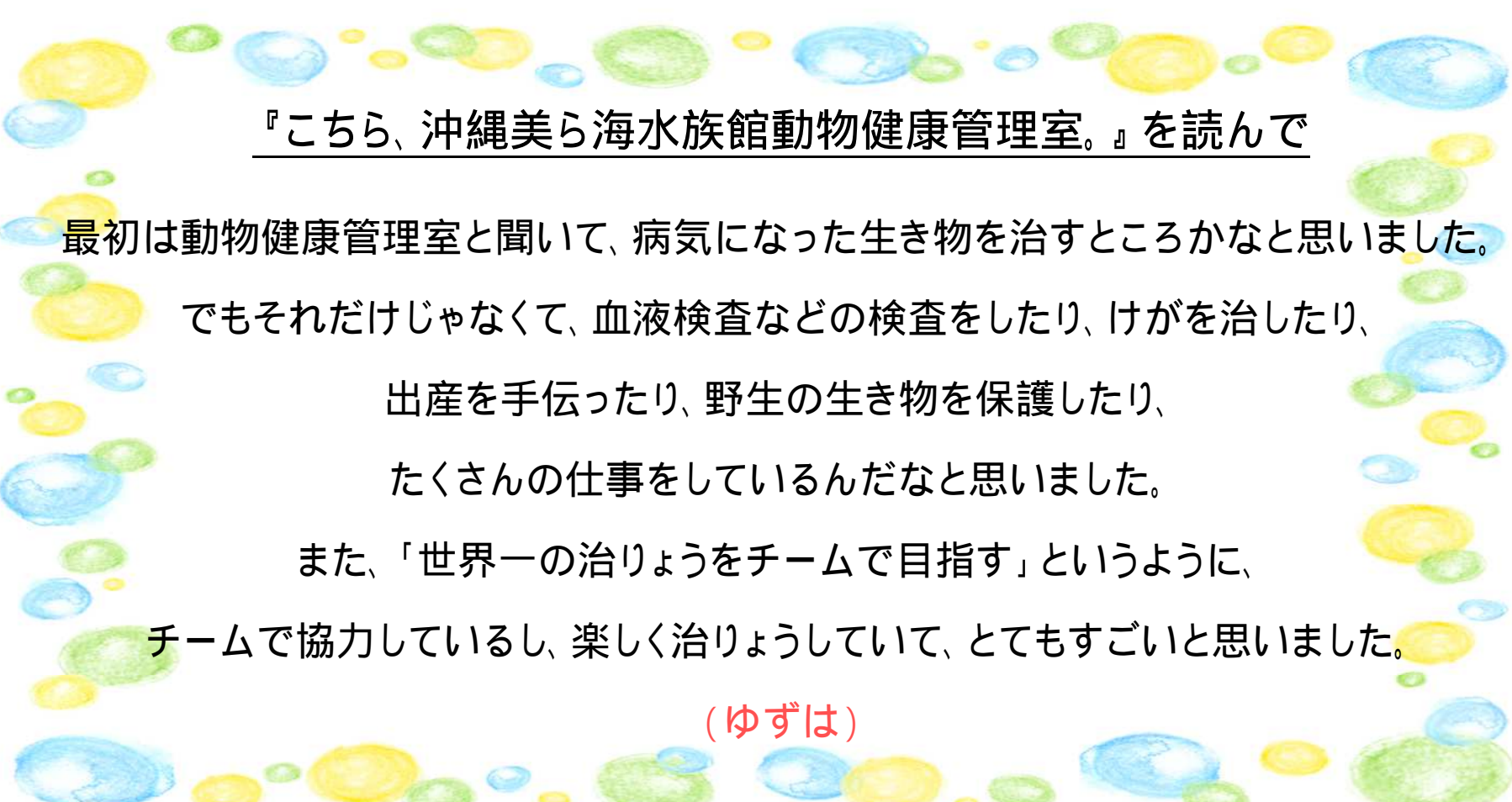
『こちら、沖縄美ら海水族館健康管理室。』を読んで

この本は、沖縄の美ら海水族館で動物の健康を守る人たちの話です。

私が最も心を動かされた話を少し紹介します。それは、しっぽを病気で失ったイルカのために、みんなが協力して人口尾びれを作るというプロジェクトです。飼育員さん、獣医さん、タイヤを作る会社の協力など、多くの人に関わってイルカを支えていました。

最後にイルカが泳げるようになったところは、とても感動します。イルカ自身も、人々の心が分かるのか、気持ちにこたえようと一生懸命に練習を頑張っているところも好きなシーンです。一人では難しいことでも、仲間との信頼、そしてイルカとの信頼があればどんなことでも乗り越えられるんだということを、この本から教えてもらいました。ぜひ読んでほしい一冊です。

(さくら)



『こちら、沖縄美ら海水族館動物健康管理室。』を読んで

最初は動物健康管理室と聞いて、病気になった生き物を治すところかなと思いました。

でもそれだけじゃなくて、血液検査などの検査をしたり、けがを治したり、

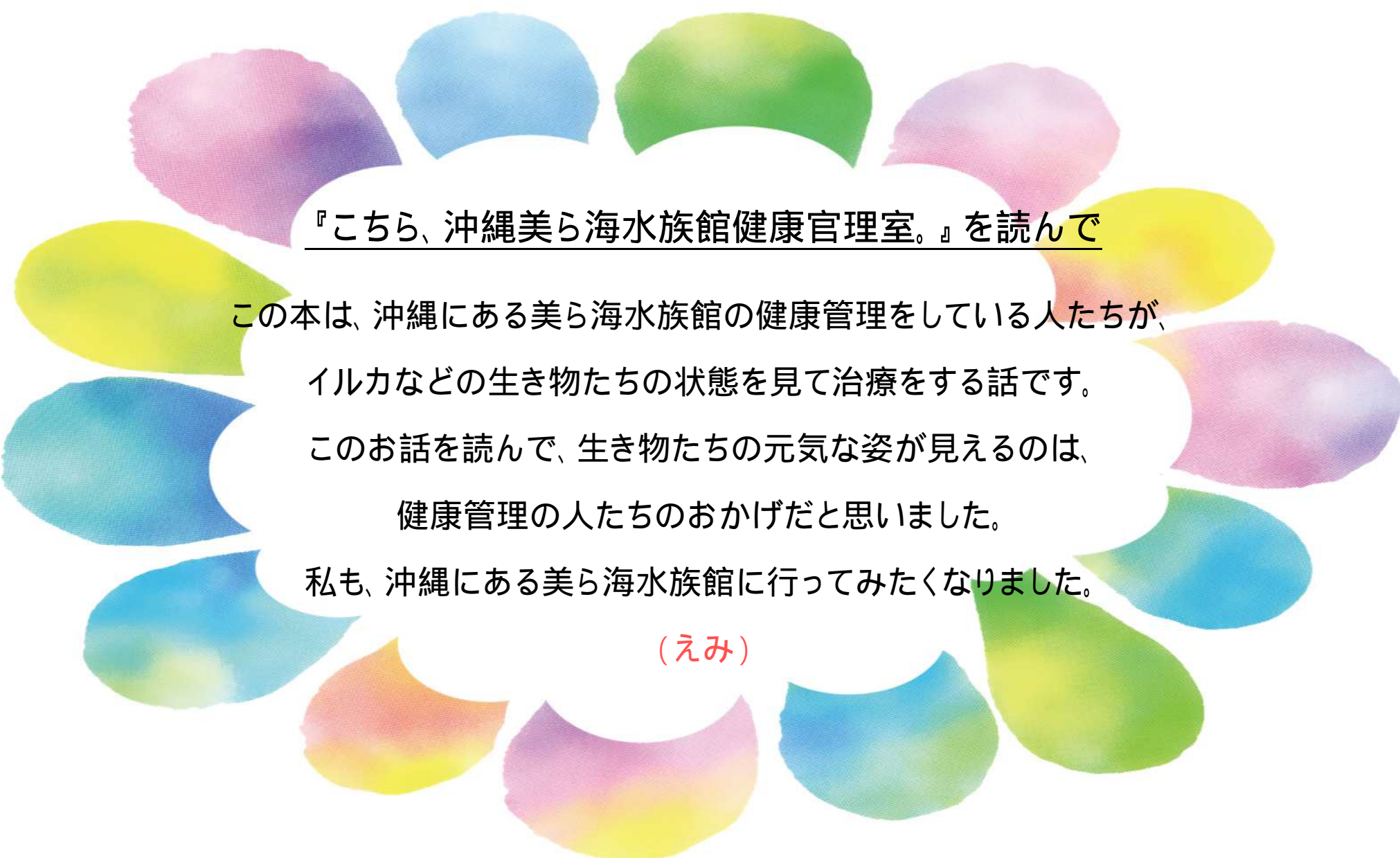
出産を手伝ったり、野生の生き物を保護したり、

たくさんの仕事をしているんだなと思いました。

また、「世界一の治りようをチームで目指す」というように、

チームで協力しているし、楽しく治りようしていて、とてもすごいと思いました。

(ゆずは)



『こちら、沖縄美ら海水族館健康官理室。』を読んで

この本は、沖縄にある美ら海水族館の健康管理をしている人たちが、
イルカなどの生き物たちの状態を見て治療をする話です。

このお話を読んで、生き物たちの元気な姿が見えるのは、
健康管理の人たちのおかげだと思いました。

私も、沖縄にある美ら海水族館に行ってみたくくなりました。

(えみ)

『パンダのタンタン』を読んで

タンタンの名前の由来が「太陽がのぼる」、「夜が明ける」というのが
すてきだなと思いました。コウコウも復興の興からきていて
パンダがまわりを明るくしてくれるようでいいなと思いました。
パンダは耳と鼻が良いのが意外で、かわいいなと思いました。

(ももか)

『パンダのタンタン』を読んで

この本は、タンタンの飼育員さんの生活がかかれています。

特に、朝早く起きて、細い竹の子を取っていたのが大変そうでした。

この本を読むと、パンダを育てている気持ちになれます。

パンダをもっと知りたい人におすすめです。

(えみ)